社会資本総合整備計画(低炭素まちづくり計画 活力創出基盤整備) フォローアップ報告シート

	₹ /十 ~ 小心	, H 7F-1	HI II I I I I I I I I I I I I I I I I I	(PEAD	ベオシ	.) / (, / pr	E 1日フJ有リ	<u>цж</u>	正冊/	A -	/ / / TK F	1 / 1							令和3年2月28日
計画の)名称		安心・特	で適な、関	振わいある	ふれるエコ	コみち"	あんじょう"												
計画の	期間		平成29年	- 度 ~	平成31年	E度 (3	3年間)	.,		交付対象		安城市								
計画の			1 /4/200		1 ///201	1 1 (0	× 1 1F4/			24147.4-01		22/90/11								
		_																		
																				低炭素化を通じた「安
	心・快適	箇な、賑れ	ついあふれ	れる」ま	ちの拠点	を形成す	る。また	.拠点を発信源に、	市全体では	氐炭素化を促進る	させ、持続	売可能な「安心・サ	や適な、賑わいま	りふれるエ	コみち"	あんじ。	ょう"」の	形成を目指す	0	
	の出用日	1 / 一 / 小 / 上	3.66 HS HE \		1															
計画の成果目標(定量的指標)																				
	· 安全 ·	安心生活	モエリア・	カバー家	(%) · ī	古街地敷	借惠業協	[行面積のうち、老	拓した 您们	単古街地の解消:	かど都市事	1般の整備により	宏心して暮ら ず	ーーレがで	きス生活	エリアメ	≿83% (H2	7) 10 6 88%	(H31)	に拡大
	· コミっ	ュニティノ	ローファク バス利用a	各数 (人	/年) :	都市機能	加事系施の集約配	置による都市拠点	の強化に、	トり 公共交通権	※関を利用	日上た都市・地域物	九点への来訪者数	ケを98 400	人 (H27)	ー /	500 A (H	131) に増加	(1101)	(C 1/11) C
	` -	/	* ** 47 4	1 3/C (/ C/	/	HP - IV I/A IIIC	// // / // /	iero o philipem	(->)24 2 ()	X / \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \	MING C 13/1	I O TO HOTEL ALL SALA	C/W -> //46/ [1 %	χ ⊆ υσ, 100.	/ (1121)	, , , , , ,	,	101/(
定量	的指煙の	つ定義及で	で質定式										定量的	指標の現	況値及び	日煙値	1			
~	H 11 H 101 **	/ /L-1/2//)) / / 		_								当初現況値 中間目標値 最終目標値						備考	
												-	(H27当初)	1 191 1			1末)			
ſ	- ((+ M	K17-441 -	て供えの。	ホモトナ	A # > 1	4-5T 11 ·	マ / 市ケ/共	シャを相号のロル	の苦ゆの	光砂型ふき 会 に	I⊏ rkW-		(1121 -177)			(110	1/10/			
								iされた幅員6m以上				ショルテトルフタ (人								
1						ハエリノ・	を調宜し	、拠点的市街地に	1mでいみ.	 到地登開爭耒爬1	」則傾の行	計計に自める割合	83%	-	-	8	8%			
			市基盤の 野																	
								生活エリア)/(ホ	节街地整備	(事業施行面積)										
② ■コミュニティバス利用者数 (人/年) ※賑わい・人の集積 98,400 117,500																				
都市拠点 (JR安城駅周辺) 、地域拠点 (名鉄桜井駅) 内の主要バス停における利用者数 (人/年)											人/年			人	/年					
				計·	3,192 百万円		1	2 100 FTH D					効果促進導	事業費の割合					Δ0/	
筆	全体事業費	貝		B+C)	3, 192	日万円	Α	3,192 百万円	В	_	С	-		+B+C)				0.	0%	
O	In ()	n (- 0	the Samuel	1.11.00	mba I (an I are													
○事後評	·価(中間	引評価 ニ	フォロー)	アップ報	告)の実力	施体制、	実施時期													
事後評価	(中間評価	而 フォロ	ーアップ	報告)の3	実施体制						事後評価	i(中間評価 フォ	ローアップ報告	.)						
						一葉アナンバ	トス市公司	評価原案の審議				後評価を実施、R2			フュヮー	アップ	な事権			
R1年10月 R1年12月				文刊並計	十1四1天司云	の政につい	ノる 事後に	十世 が 来り 番 哉			N1++ · →	で表計画で 天旭、N2	44月86年、唯	と順により	7 3 4 4	1 7 7 7	と天旭			
				今春社会	亚年423十	△詳/ァセ	ける事後	証価シートの特本	:		公表の方	注								
R2年 1月:第2回社会資本整備総合交付金評価検討会議における事後評価シートの精査 公表の方法 安城市HPにより公表																				
164年 3月 : 争後計画結本の公表																				
100年 9月 - 7 月 7 月 7 月 7 月 7 月 7 日 1 日 1 日 1 日 1 日 1 日 1 日 1 日 1 日 1 日																				
1.交付対象事業の進捗状況																				
交付対象	事業																			
A 基幹																				
番号	事業	地域	交付	直接		道路	省略	亜表	となる事業		I .	事業内容		1	事業実力	新田朋	(年度)	A 11-4	AGA 189	備考
田々				1	事業者		工種				l		市町村名	TT00 I			一	全体事		/file /b
	種別	種別	対象	間接		種別	上准		事業箇所)		(進:	長・面積等)		H29	H30	H31				
2-A-1	街路	一般	安城市	直接	安城市	_	l _	安城桜井駅周辺地	11区((都)安城浦郡線ほ	区画連	整理 A=93.8ha	安城市					1,8	R68 L	
	14.134	/ILX		- IX	~ /M III			か7路線)					~~ /AV.11*							
	Altride	An.	#1.K-		#11.K-#-			安城南明治第一地	也区((都	安城碧南線ほ	F	10 TH A 1 C 71	++ L-12	7	T				T	
2-A-2	街路	一般	安城市	直接	安城市		I -	か4路線)				整理 A=16.7ha	安城市				1	1,	324	
								I								合計		9	192	
D HI:#	4.公次+		業(該当7	217														1 0,	134	
	<u>任云質年</u> 事業	N 登 佣 争 3	₹ (談ヨ/ ┃ 交付	直接	1	少	`略	1			1	事業内容		1	重業生+	施期間	(在度)	全体事	ave alls.	備考
番号	乗来 種別		対象	直接 間接	事業者		種	要素	となる事業			長・面積等)	市町村名	H29	H30	H31	(千)及)	全体事 (百万		7/HI -45
-	但里力リ	種別	川川家		—		-1里	-			(地)	八 凹頂守/		1129	пои	пя		(12)	+	
																合計	\vdash		0	
																口可			v	
本口	/*-651>	· 中世十:	Z = 1.1+	トル相供	キムッだ	Ħ													-	/曲 土
番号 一体的に実施することにより期待される効果														備考						
C *4. III	/D X4 字型	<u>u</u>																		
C 効果		发						ı		1	事業実施期間 (年度)			1	Т	/# 本				
番号	事業	地域	交付	直接間接	事業者	省略 丁種		要素となる事業名		事業内容	市町村名						業費 田)	備考		
	種別	種別	種別 対象 間		1		- 作里					H29	H30	0 H31	\vdash	(百万	117			
																合計			0	
	,,																			
番号	一体的に	こ実施する	ることに、	より期待	される効果	果													[備考
※交付対	象事業に	こついてに	ま、でき 2	るだけ個	別路線ご	とに記載	すること	0												

2. 事業効果の発現状況、目標値の達成状況

I 定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況

【災害等に対して備えのできた安全・安心生活エリアの創出】土地区画整理事業地区内の道路整備が計画的に進捗していることにより、災害等に対して備えのできた安全・安心生活エ リアが拡大したと考える。

【コミュニティバスの年間利用者数からみた中心市街地の賑わいや集客効果】機能の集約や基盤整備により公共交通機関を利用して、中心市街地内の拠点施設等への来訪者が増加した と考える。

Ⅱ定量的指標の達成状況

指標①(安全・ 安心生活エリア カバー率) 最終実績値 (見込値)

最終目標値

都市計画道路や公園の一体的整備が進捗したことにより、災害に対する都市機能及びマチナカ居住機能集積区域の安全性が 確保され、快適に交流し暮らし続けることができる安全・安心生活エリアが拡大したと考える。

に差が出た要因 97.29% 最終目標値 117,500人/年

都市計画道路等の整備が着実に進捗したことにより、マチナカ居住への適正な誘導が進み、コミュニティバスの利用者数が |増加したと考える。

指標②(コミュ ニティバス利用・ 者数)

目標値と実績値 に差が出た要因 最終実績値 130,509人/年 (見込値)

88%

交付対象事業の目標達成への効果発現状況について、上記目標を補足・補完する指標で整理する。

目標値と実績値

Ⅲ定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況

(必要に応じて記述)

■指標①のその他指標

1. 幹線道路の寄与率 (%) : ①安城桜井駅周辺地区 H27現況值=42.34% R1実績值=51.26% ②安城南明治第一地区 H27現況值= 7.47% R1実績值=46.73%

(備考) 寄与率(%)は、各土地区画整理 事業の全区域に占める面積割合を 示している。

3. 特記事項(今後の方針等)

【今後のまちづくり方策の進捗状況】

・安城桜井駅周辺地区、安城南明治第一地区における街路事業の計画的な進捗により、安心で快適な、コンパクトシティ型都市基盤整備の継続による、低炭素化を通じた「安心・快適な、賑わいあふれる」まちの拠点の形成を推進し、拠 点施設周辺の交通円滑化と歩行者の安全確保が促進されたことで、安心・快適な、賑わいのある集約型地域づくりを誘導する都市基盤の整備とネットワークが形成されている。

【今後の課題】

- ・区画整理事業等基盤整備の未整備区間解消を目標に、引き続き計画的な事業の継続を図っていく。
- ・街路事業及び公共交通の利便性向上にむけた取組を継続することにより、さらなる拠点間ネットワークの形成促進を図っていく。 ・安全で快適な自転車利用を促進するため、自転車が通る場所を示す等の整備をJR安城駅、JR三河安城駅、名鉄新安城駅を結ぶ路線において優先的に進め、自転車ネットワークの構築を図っていく。

(参考図面) 様式3

